

泌尿器科紀要

第25巻 第9号

1979年9月

多核白血球遊走能にかんする研究
 一第1報—各種抗生剤のヒト多核白血球遊走能におよぼす影響……………黒田 泰二・ほか
 抗癌剤の経膀胱的吸収に関する研究 —膀胱内注入療法的基础—
 第2報：³H-Adriamycinの経膀胱的吸収，体内分布，排泄について……………永田 一
 膀胱癌患者の細胞性免疫能に関する研究
 第5報：LAI testにおける患者血清の blocking, unblocking 効果
 について……………西尾 正一・ほか
 加齢による腎機能の推移に関する臨床的研究……………細川 進一・ほか
 上部尿路手術における腰部斜切開法(Lurz法)の経験……………松浦 健・ほか
 N-Butyl-N-(4-hydroxybutyl) Nitrosamine による膀胱発癌に対する
 Krestin の効果……………藤田 公生・ほか
 内分泌学的非活性副腎皮質癌の1例……………森山 正敏・ほか
 先天性腎盂尿管移行部狭窄を伴った馬蹄鉄腎：腎外傷を契機として
 発見した1例……………光林 茂・ほか
 出血性放射線膀胱炎の難治性にかんする病理組織学的検討……………友吉 唯夫・ほか
 骨盤腔放射線照射療法後に発生した膀胱原発性上皮性腫瘍の2例……………友吉 唯夫・ほか
 陰茎亀頭・体部間包皮結合索の1例……………友吉 唯夫・ほか
 副睾丸平滑筋腫の1例……………小原 信夫・ほか
 腹部停留辜丸から発生した Dermoid Cyst の1例……………門脇 和臣・ほか
 前立腺癌に対する Estramustine Phosphate (Estracyt[®]) の使用経験……………足立望太郎・ほか
 Gestenorone Capronate (Depostat) による前立腺肥大症の治療……………田中 求平・ほか
 前立腺肥大症の自覚症状改善に対する八味地黄丸の効果……………新島 端夫・ほか
 前立腺肥大症における八味地黄丸の使用による排尿動態の観察……………浦田 英男・ほか



CONTENTS

A Study of Polymorphonuclear Leukocyte Chemotaxis
 Report I: Effect of Antibiotics on Chemotaxis of Human
 Polymorphonuclear Leukocytes……………Y. Kuroda et al. 883
 Studies on the Absorption of Anticancer Agents through the
 Bladder—Basis of the Instillation Therapy— II: Distribution
 and Excretion of the Absorbed ³H-Andriamycin……………K. Nagata 891
 Studies on the Cellular Immune Response in Patients with Urinary
 Bladder Carcinoma V. Detection of Specific Serum Factors in
 Patients by Leukocyte Adherence Inhibition Test……………S. Nisio et al. 897
 Clinical Studies on Changes of Renal Function by Aging……………S. Hosokawa et al. 905
 Lumbodorsal Approach by Lurz for the Upper Urinary Tract
 Operations……………T. Matsuura et al. 911
 Effect of Krestin on Bladder Tumor Induction in Rats by
 N-Butyl-N-(4-Hydroxybutyl) Nitrosamine……………K. Fujita et al. 917
 A Case of Nonfunctioning Adrenocortical Carcinoma……………M. Moriyama et al. 921
 A Case of Horseshoe Kidney Associated with Congenital
 Ureteropelvic Junction Obstruction Found Following
 Renal Trauma……………S. Mitsubayashi et al. 929
 Pathohistological Explanations of Intractability of
 Hemorrhagic Radiation Cystitis……………T. Tomoyoshi et al. 935
 Primary Carcinoma of the Bladder which Developed after Pelvic
 Irradiation for Pelvic Malignancy: Report of Two Cases……………T. Tomoyoshi et al. 941
 Prepuccial Skin Bridge Formation between Glans and Body
 of the Phallus: Report of a Case……………T. Tomoyoshi et al. 947
 A Case of the Epididymal Tumor……………N. Obara et al. 949
 Dermoid Cyst of Cryptorchid Testis: Report of a Case……………K. Kadowaki et al. 957
 Therapeutic Experience with Estramustine Phosphate (Estracyt[®])
 for Patients with Prostatic Carcinoma……………B. Adachi et al. 963
 Treatment of Benign Prostatic Hypertrophy with Gestenorone
 Gapronate……………K. Tanaka et al. 969
 Subjective Relief from Prostatism with a Herb Medicine……………T. Nijima et al. 977
 The Evaluation of Hachimijogon in the Aspect of Micturition
 in the Treatment of Benign Prostatic Hypertrophy……………K. Nagata et al. 983



Editor: Prof. Osamu YOSHIDA, M.D.

Department of Urology, Faculty of Medicine

Kyoto University, Kyoto Japan 606

京都大学医学部泌尿器科学教室

泌尿紀要
 Acta Urol.

編集部よりのお願い

従来より本誌掲載の図・表については、初校印刷後、原則として校正ができないことになっていました。しかしながら、なるべく正確を期すという方針から、可能なかぎり投稿者の便宜を計ってきました。今般、印刷業務の合理化を計るため新しい機器が導入されました。そのため、本誌掲載の図・表については、初校印刷後は全く校正できません。したがって組版を除き従来行なわれてきた著者校正の段階での図・表の字句・数値の書き換えはもちろん、誤字の校正もできなくなります。したがって今後御投稿いただく論文については編集部による誤植以外訂正文の掲載もいたしません。また明瞭に記載され、様式の整った印刷、タイプまたはトレースされた、あるいは楷書、活字体で丁寧に書かれた図・表以外の誤植についても責任を負いかねます。したがって御投稿いただく前にもう1度念を入れて御投稿される図・表の様式、字句、数値などを、最新の本誌に掲載されている図・表の様式を参照されつつ御点検下さい。なお、文献についても、英文はタイプで、和文は少なくとも楷書でキチンと書いて下さい。

編集後記

当時の結石患者が、手術の怖れと結石の苦痛から通れて最後に求めたものは、やはり溶解剤であった。Stephens 嬢が「解剖学的事実に基礎を置き、多年の研究の後完成された超科学的内服剤で、これを服用して全治せざるものはない」特効薬を創製した。Sharp が数年来膀胱結石で苦しんでいた57歳の貴族に投与し、結石の小片が排出されたこと、剖検の結果大きな結石の外殻が自潰していたことからこの特効薬の効果を喧伝した。これが契機になって高官や貴族の患者の間で愛用され、膀胱結石が細片となって排出する靈効が認められ、最後にはこの秘法を114,000ルーブルで買収するための議案が議会で萬場一致の可決をみたという。

Lecat によれば当時もっとも一般的な結石溶解剤の処方は、白葱、葱の種子、Perce-Pierre 穴のあいた石、ゆきの下、鹿耳草、卵の殻、蝸牛の殻、古い煙草の細砕した粉末からなっていた。

当時は結石の診断も困難であったし、ましてやその大きさや数などを正確に把握するのは不可能であったろう。結石溶解剤の信者で自らの結石も完全に溶解させたと主張していた Walpole の膀胱に2コの大結石が存在するのが剖検で確認された。一生をかけた自らの医業の信念を一朝にして自らの遺体で葬り去ることになったのは、厳しいというべきだろうか、また空しいというべきだろうか。結石溶解剤をめぐるいろいろな悲喜劇が繰り返されてきたのであろう。(T.K.)

編集委員

石 神 襄 次	前 川 正 信	宮 崎 重
新 谷 浩	園 田 孝 夫	友 吉 唯 夫
桐 山 香 夫 (副主幹)	吉 田 修 (主 幹)	

購読要項

1. 発行は原則として毎月とし、年間購読者を会員とします。
2. 会員は年間予約購読料と5,000円(送料とも)前納していただきます。
分売は原則としていたしません。払込みは振替に限ります。口座番号 京都4772番 泌尿器科紀要編集部宛。外国は送料とも年間25ドルです。

3. 入会は氏名(フリガナ)、住所(雑誌郵送先)、勤務先をご記入のうえ編集部あて、はがきにてお申し込みください。

投稿内規(1969年1月改正)

1. 原稿の種類は綜説、原著、臨床報告、その他、和文または英文とします。
2. 原稿の長さは制限しませんが簡潔に願います。
3. 和文原稿は400字詰原稿用紙横書きとし、当用漢字、平かな、現代かなづかいを用い、片かなには「」を要しません。表、図の説明はなるべく英文にしてください。文中欧語学術用語は固有名詞、記号以外はキャピタルではじめる必要はありません。必ず英文抄録をつけ、これには英文の表題、所属機関名、ローマ字著者名も記入しておいてください。
英文抄録は詳細なものを歓迎します。ご希望の場合は当編集部にて作成しますので、抄録用の和文原稿を別につけてください。翻訳の実費は申し受けません。
4. 英文原稿の場合はタイプでダブルスペース打とし、和文表題と和文抄録をつけてください。
5. 数字はすべて算用数字を使用し、数量の単位は m, cm, mm, cc, ml, kg, g, mg, °C, μ, %, PH などを使用し、は不要です。また BUN IVP NPN PSP TUR なども、を要しません。
6. 表、図、写真などはすべて別紙とし、説明は和文、英文を問わず Table 1, Fig. 2 等としてください。
7. 文献の書式は次のようにしてください。
 - A 雑誌の場合 著者名：誌名、巻数：頁数、西暦年次。(論文題名は自由です)
文献名は正式略称を用いてください。
例：日泌尿会誌、臨床皮泌、皮と泌、泌尿紀要、臨泌；J. Urol., Invest. Urol., Zschr. Urol. 等。
 - B 単行本の場合 著者氏名：書名、版数、Vol. 数、p. 数、発行所、出版地、年次。
8. 校正は初校のみ著者にもお願いし、再校以降は編集部のみがおこないます。著者複数の場合、校正責任者をお示しください。
9. 原稿は返却いたします。
10. 原稿到達日を受付日とし、予約による受付はいたしません。
11. 原稿送り先は、〒606 京都市左京区聖護院 京大病院 泌尿器科紀要編集部、書留便。

泌尿器科紀要 第25巻 第9号	1979年9月25日 印刷	1979年9月30日 発行
創刊 稲田 務	顧問 加藤 篤 二	定価 500円(送料別)
発行 吉田 修	発行所 泌尿器科紀要編集部	
〒606 京都市左京区聖護院川原町54 京都大学医学部泌尿器科学教室内 電話(075)751-3327(直通)		
印刷所 山代印刷株式会社 京都市上京区寺之内通小川西入		
